

弥生時代前期の大規模竪穴住居

きたみぞて
北溝手遺跡

総社市北溝手

北溝手遺跡は県立大学の西側にあり、昨年度から継続して調査を行っています。今年度の調査では、2つのやや高い地形（微高地）^{びこうち}上から弥生時代の集落を発見しました。この微高地間に旧河道が流れており、集落を南北に分断しています。旧河道は幅約40m、深さ約3mあり^{けいはん}ます。弥生時代になると旧河道が埋没していく過程で水田が営まれたようです。残念ながら畦畔そのものは残っていませんでしたが、古墳時代に属する可能性が高い畦畔の痕跡から水田の存在がうかがえました。旧河道をはさんだ北側の微高地は一部のみの調査であり、ムラの縁辺部^{えんぺんぶ}であったため、竪穴住居等は発見できていません。ここからは幅約5m、深さ約2mの溝を発見しました。この溝は北の微高地上に広がっていたと推測されるムラの用水路として使われていたと考えられます。



弥生時代前期の竪穴住居（南から）

一方、旧河道の南側に広がる微高地上では、弥生時代前期～後期までの竪穴住居や土壇と呼ばれる穴が多く見つかっています。なかでも注目すべきは、弥生時代前期前半と考えられる竪穴住居です。平面は円形を呈しており、規模は径10.8mに復元できました。県内における弥生時代前期前半の竪穴住居としては最大級の規模です。

またこの住居からは、床面から炭化した柱材の一部が見つかりました。通常、柱は地中で腐り、痕跡しか残りません。しかしこの柱材は、直径が約23cmという、当時使われていた柱材本来の太さを確認できる、貴重な一例といえます。

遺物としては、^{あな}孔をあけるために使う^{せきすい}石錐や狩りで使う石鏃など、多くの石器が出土しました。また、それらの石器を作るために使った石材、製作中に飛び散った破片なども出土しており、住居内で石器を作っていたのではないかと考えられます。

なお、この住居からは、県内でも珍しく、注目すべき遺物が出土しています。それは川原石を使った石製品です。大きさは長さ70.5mm、幅47mm、厚さ23mmの長方形を呈しており、重量が95.23gあります。川原石の長辺端に孔があげられ、孔を縁取るようにして筆状の道具で赤色の装飾が施されていました。線を描く際に手元が狂ったのか、赤色が石に点々と飛び散っています。この石はペンダントとして使われていたのかもしれませんが。

この住居と同時期に存在し、関連すると考えられる住居が、平成元年に県立大学を調査した際に検出されています。県立大学の住居では玉造りの道具や素材が出土しており、玉造りをしていたようですが、今回調査を行った住居は調査が終了しておらず、整理も途中であるため、今のところ確認できていません。今後の整理作業にご期待ください。(高山沙織)



用水路と思われる溝（東から）



竪穴住居床面の堆積土の採取
水洗し、微小な遺物を抽出します



竪穴住居の床面に残された柱材（南から）



石製品（ペンダント?）

百間川遺跡群の発掘調査は平成16年度を最後に休止していましたが、低水路拡幅工事に伴い、今年度から6年ぶりに再開しました。

周辺の過去の調査から推測されたように、弥生時代前期・中期・後期の3時期の水田の広がり確認されました。今から約1700年前におこった大洪水による土砂に覆われた後期水田は、当時の景観を今に伝えます。畦畔による区画は一辺が5～10mの正方形または長方形で、整然と連なっています。また農作業用の道路と考えられる幅約6

m、高さ60cmの高まりも見つかっています。この水田を区画する畦畔の交差点は十字ではなく、少しずらす、または三叉路にするなど、水が畦畔を越えやすくする工夫がみられます。それに比べると、前期・中期水田の区画は不定形なものもみられ、大きさもまちまちです。これは水利の面を重視するために、微地形にあわせ、畦畔を等高線に沿わせてつくっているためです。ここにも水の供給に苦心した、当時の人々の工夫がうかがえます。

前期～後期の水田で共通して見つかる遺物のなかに、サヌカイトで作られた石鏃と多数の自然の円礫の存在があげられます。サヌカイト製の石鏃は全長3cm以下と小型で、狩猟用と考えられているものです。自然の円礫は長さが3～5cm、重量30～60g程度のものが多く、自然の川原石を利用した石製投弾と考えられます。このような石製投弾は、岡山市津島遺跡の弥生時代前期の水田からも見つかっています。弥生時代の人々が水田において、これらの道具を使って狩りをしたり、稲穂を害する鳥獣を追い払ったりする姿を思い描くことができます。(團 奈歩)



弥生時代後期の水田（北西から）



弥生時代中期の水田（北西から）



石製投弾（上）と石鏃（下）

やまつだ 山津田遺跡

総社市上林

山津田遺跡は作山古墳の東側真向かいの丘陵上にあります。今回の調査では2軒の竪穴住居の重なりを含め、3軒の古墳時代前半の竪穴住居が見つかりました。重なって見つかった竪穴住居は西側半分が壊されているものの、深いところでは約70cmも残っていました。住居の埋め土からは壺や高杯、甕などの土器が出土しました。また、いっしょに特殊器台の破片が出土しており、近くに弥生時代のお墓が存在するのではないかと考えられます。

これらの成果から山津田遺跡では弥生時代から古墳時代にかけて、長い期間にわたって集落が営まれていたことがわかりました。
(和田 剛)



調査地の様子（南から）



重なって見つかった竪穴住居（南東から）

かなやま やしき 金山屋敷遺跡

西粟倉村影石

鳥取県境に近い西粟倉村影石の製鉄遺跡（江戸時代）です。中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）の建設に伴い発掘調査を行いました。村内を流れる吉野川に面した小高い場所にあり、斜面に向かって鉄滓（製鉄の時に出る不純物のかたまり）などが、たくさん捨てられていました。炉は見つかりませんでしたが、比較的小規模なものだったと考えています。

中国山地は、たたら吹製鉄の中心地。村内には19か所の製鉄遺跡があります。しかし、実のところ濁水問題などで砂鉄の調達がうまくいかないなど、その経営は困難だったようです。ここでの製鉄の規模も、そうした事情と関係があるのかもしれませんが。
(柴田英樹)



南上空からみた調査地



鉄滓の堆積

津島遺跡セミナーⅠ

津島遺跡セミナーⅠは、國學院大學栃木短期大学日本史学科教授の小林青樹先生と、岡山大学大学院社会文化科学研究科教授の松木武彦先生を講師にお招きし、7月10日（土）に県立図書館で開催しました。

『津島遺跡と弥生時代』をテーマとして、小林先生には、「生活と祭祀からみた弥生文化のはじまり—津島遺跡とその周辺—」、松木先生には、「景観から見た津島弥生ムラの移り変わり」と題してご講演いただきました。

当日の参加者は130名で、大盛況のセミナーとなりました。次回津島遺跡セミナーⅡは、『弥生時代の生活（仮）』というテーマで、平成23年1月16日（日）に開催予定です。

皆さん、ぜひお越しください。



セミナーの様子



小林先生の講演



松木先生の講演

夏休み少年少女鬼ノ城教室

7月24日、入道雲が伸びゆく青空のもと、夏休み少年少女鬼ノ城教室を行いました。当日は小学校5・6年生25名が参加し、さらに見学希望の保護者を合わせると60名近い人数でのイベントになりました。まず鬼城山ビジターセンターで開講式を行い、城内に移動。そして、西門や角楼、礎石建物群など城内施設の説明を聞いてもらい、いよいよ調査現場へ。現場では3組に分かれ、ケズリや竹ペラでの発掘、その様子の写真撮影、さらに第5水門に流れる水路の標高の計測と断面の実測という体験をしてもらいました。当日は気温35度を超える猛暑日でしたが、誰一人へこたれることなく、真剣な眼差しで作業に取り組んでくれました。イベントの最後には屏風折れの石垣で記念撮影。夏休みの思い出として心に残ってくれたらと思います。



何ができるかな？発掘体験



力をあわせて断面図作成

県内の発掘調査報告会を8月21日（土）に県立博物館で開催しました。当日は120名の方の参加があり、熱心に各遺跡の報告を聴いていただきました。

また、報告展として8月5日（木）から9月5日（日）までの期間、報告遺跡から出土した遺物の展示を県立博物館で行いました。



報告会の様子

<報告・展示の遺跡>

- ①上東中嶋遺跡（倉敷市） 県古代吉備文化財センター
- ②南溝手・北溝手遺跡（総社市） 県古代吉備文化財センター
- ③八紘古墳群（総社市） 県古代吉備文化財センター
- ④鬼ノ城（総社市） 県古代吉備文化財センター
- ⑤大供本町遺跡（岡山市） 岡山市教育委員会
- ⑥半田山午砲台跡（岡山市） 岡山理科大学



報告展の様子

展示室から —平成22年度の企画展示—



企画展Ⅰの様子

センターの展示室では、今年度3回の企画展を開催する予定です。企画展Ⅰ「最近刊行された報告書から」は、8月22日まで行いました。現在は、企画展Ⅱ「吉備の横穴式石室」を開催中です。大刀や馬具、玉類など多彩な副葬品をご覧下さい。企画展Ⅲでは「備中国分寺の瓦（仮題）」を計画しています。ぜひ、お越しください。

	遺跡名	展示品	期間
企画展Ⅰ	上東中嶋遺跡	突帯文土器、種子圧痕のある土器	平成22年 4月23日（金）～
	伊福定国前遺跡	弥生土器、円面硯、墨書土器	～
	婦本路古墳群	須恵器、水晶製切子玉、ガラス製小玉	8月22日（日）
企画展Ⅱ	西山古墳群	内面朱塗りの須恵器杯蓋	平成22年
	弥上古墳	装飾付き馬具、須恵器器台	8月24日（火）～
	穴が辻古墳	銀装円頭大刀	～
	根岸古墳	玉類	12月26日（日）
企画展Ⅲ	備中国分寺	瓦など（吉備路郷土館関連遺物）	平成23年 1月6日（木）～ 4月24日（日）



玉類や墨書土器などの展示

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」224『伊福定国前遺跡』（岡山市）

弥生時代中期～室町時代にわたる集落跡を確認。ことに奈良～平安時代の遺構から出土した円面硯や墨書土器、緑釉陶器などの遺物は、古代伊福郷の一端を物語る資料として注目されます。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」225『婦本路古墳群』（赤磐市）

この地域で比較的古い横穴式石室を有する2号墳を含む、古墳時代後期の古墳3基を報告しています。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」226『上東中嶋遺跡』（倉敷市）

縄文時代～近世にいたる集落跡。微高地からは縄文時代晩期末の土器やサヌカイト石器、剥片が多く出土し、周辺にこの時期の集落の存在が推定されます。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」227『姥ヶ辻遺跡2』（津山市）

低い丘陵上に形成された古墳時代を中心とした集落遺跡。古墳時代の竪穴住居や建物の遺構を検出しました。また、縄文時代の落とし穴の可能性のある土壌も確認されました。

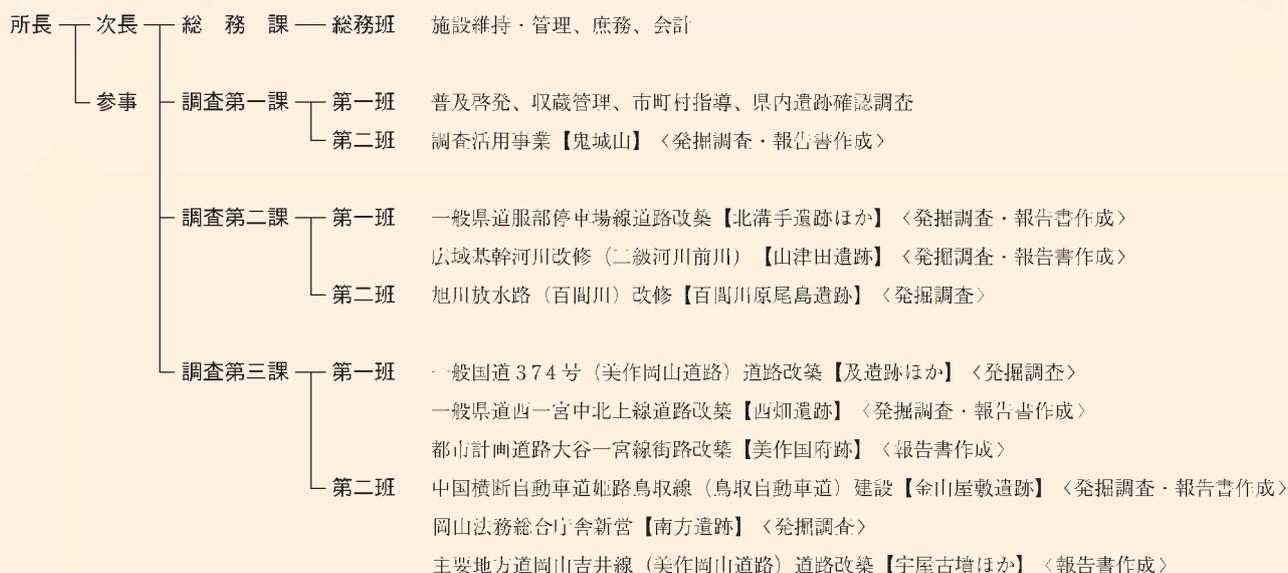
センター収蔵品紹介 vol.8 —中山茶臼山古墳出土埴輪—

岡山県古代吉備文化財センターは吉備中山に所在しますが、センターの開設まで、この場所は岡山県吉備青年の家として利用されてきました。ここに紹介する中山茶臼山古墳の埴輪は、上東遺跡出土土器などとともに地域の歴史資料として青年の家の一角に保管されていたものです。考古資料であることからセンターの設置時に引き継ぎましたが、発掘調査出土品からなるセンターの遺物の中では異色の来歴をもちます。



中山茶臼山古墳はセンターの北側の山頂に築かれた全長105mの前方後円墳で、墳形の特徴から前期前半の築造とみられます。なお、この古墳は大吉備津彦命墓に治定されて宮内庁の管理下にあります。埴輪は大型の破片を含みますが、元がかなり大型の製品であったらしく、全形を知ることは困難です。いずれも外面には赤色顔料が塗られています。写真上半の破片は円筒埴輪片ですが、突帯は剥離しています。下段の大型破片は壺形埴輪の可能性がある破片で、大きな巴形の透かし孔が穿たれています。右に拡大して示すように、円筒埴輪片には弧帯文の一部とみられる平行してカーブする線刻をもつものが含まれています。これらは、吉備と大和で発展をとげる特殊器台形埴輪の最終型式と考えられます。古墳時代前期の両地域の関係を考察する際の手がかりとなり、また、中山茶臼山古墳の年代を示す重要な資料です。（宇垣匡雅）

平成22年度の組織と業務



<職員>

所長	児仁井克一
次長	片山 淳司
(総務課長事務取扱)	
参事	中野 雅美
総務課	
総務班	
総括副参事(班長)	上田 利弘
主任	植木寿美子
主任	中島 忍
主任	行守 智和
主事	堤 弘至
主事	武井 淳子
主事	尾川 華子
臨時職員	池上智恵美
調査第一課	
課長	江見 正己

第一班	
総括副参事(班長)	高田恭一郎
主任	物部 茂樹
主任	石田 爲成
主任	米山 克彦
(文化財課本務)	
臨時職員	光延 秀典
第二班	
総括主任(班長)	金田 善敬
主任	岡本 泰典
主任	上村 武
調査第二課	
課長	鳥崎 東
第一班	
総括主幹(班長)	渡邊恵里子
主任	小嶋 善邦
主任	松尾 佳子

主任	和田 剛
主事	高山 沙織
第二班	
総括副参事(班長)	亀山 行雄
副参事	内藤 善史
主任	團 奈歩
調査第三課	
課長	大橋 雅也
第一班	
総括主任(班長)	杉山 一雄
主任	小林 利晴
主事	藤原 摩耶
第二班	
総括主幹(班長)	柴田 英樹
主幹	氏平 昭則
主事	三輪 宜生

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内
 - ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
 - ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- 業務時間 AM8:30~PM5:15
- 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- 展示室の開館 AM9:00~PM5:00
年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

なくしていこう、差別・偏見・いじめ

